

化学殺虫剤

オルトラン水和剤

有効成分：アセフェート（PRTR・1種） 50.0%

作用機構分類：殺虫剤分類 1B

登録番号：第19992号

 性状：類白色水和性粉末 63 μ m以下

有効年限：4年

 包装：100g \times 100袋、500g \times 20袋

適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセフェートを含む農薬の総使用回数		
キャベツ	ヨウムシ、ハスモンヨウ タマキ [®] ウハ [®]	1000~1500倍	100~300 L/10a	収穫30日 前まで	1回	散布	2回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 定植後の散布は 1回以内)		
	アオムシ、コナガ、アブラムシ 類	1000~2000倍							
	アザミウマ類	1000倍							
はくさい	カブラハバチ、ヨウムシ ハスモンヨウ	1500倍					1回		
	アオムシ、コナガ、アブラムシ 類	1500~2000倍							
レタス	ヨウムシ	1000~1500倍					3回以内		
	アザミウマ類 アブラムシ類 オオタバコガ [®]	1000倍							
	非結球レタス	1000~1500倍							
カリフラワー	ヨウムシ	1000倍					収穫14日 前まで	1回	1回
	アザミウマ類 アブラムシ類 オオタバコガ [®]	1000倍							
非結球 あぶらな科葉菜類 (ケール、からしな、 ルッコラ、四川搾菜 (茎葉)、畑わさび、 畑わさび(葉) を除く)	アブラムシ類	1500倍	収穫21日 前まで	1回	1回				
しょうが	アワノメイガ [®]	1000倍	3.2L/10a	収穫45日 前まで	2回以内	無人航空 機による 散布	2回以内		
		32倍							

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセフェートを含む農薬の総使用回数
ごぼう	アブラムシ類	1000 倍	100~300 L/10a	収穫 45 日前まで	1 回	散布	2 回以内 (株元散布は 1 回以内、散布は 1 回以内)
オクラ	アブラムシ類 フタテントリヒメコバエ			収穫開始 7 日前まで			1 回
ばれいしょ	テトウムシダマシ幼虫 ヨトウムシ	300 倍	25L/10a	収穫 30 日前まで	2 回以内		3 回以内 (植付時の処理は 1 回以内、植付後は 2 回以内)
	アブラムシ類						
てんさい	アブラムシ類、ジャガイモガ	1000~1500 倍	100~300 L/10a	収穫 45 日前まで	3 回以内	無人航空機による散布	4 回以内 (育苗期の灌注は 1 回以内、散布は 3 回以内)
	ヨトウムシ テンサイモグリハナハエ						
	トビハムシ類	1000 倍					
	ヨトウムシ	16 倍	1.6L/10a				
	トビハムシ類	60~100 倍	2.5~3 L/m ²		育苗期	1 回	灌注
未成熟 とうもろこし	アブラムシ類 アワノメイガ	1000 倍	100~300 L/10a	収穫 7 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
あずき	アズキノメイガ、アブラムシ類 ヨトウムシ			収穫 14 日前まで			
だいず	ハスモンヨトウ、マメシクイガ アブラムシ類			16 倍	1.6L/10a		収穫 60 日前まで
	アブラムシ類						

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセフェートを含む農薬の総使用回数		
えだまめ	ハスモンヨトウ アブラムシ類	1000 倍	100~300 L/10a	収穫 21 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内		
いんげんまめ	アブラムシ類 インゲンマメゾウムシ			収穫 14 日 前まで					
たまねぎ	ネギアザミウマ	1000~1500 倍	25L/10a	収穫 21 日 前まで	5 回以内	無人航空機 による散布	5 回以内		
		300 倍							
		16 倍						1.6L/10a	
	ネギハモグリバエ	1000 倍	100~300 L/10a						
		300 倍	25L/10a						
		16 倍	1.6L/10a						
にんにく	ネギコガ アブラムシ類 アザミウマ類	1000 倍	100~300 L/10a	収穫 7 日 前まで	2 回以内	散布	2 回以内		
かき	カキタアザミウマ チャノキイロアザミウマ カキノハタムシガ フジコナカイガラムシ	1500 倍	200~700 L/10a	収穫 45 日 前まで	2 回以内		2 回以内		
いちじく	アザミウマ類	2000 倍							
茶	チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ	1000~2000 倍	200~400 L/10a	摘採 45 日 前まで	1 回		1 回		
	チャノコカクモンハマキ	1000~1500 倍							
さんしょう (果実)	チャノキイロアザミウマ	1500 倍	200~700 L/10a	収穫 14 日 前まで	散布		散布		
だいおう	ヨトウムシ	1000 倍	100~300 L/10a	生育期 但し、 収穫 230 日 前まで		3 回以内		3 回以内	
みしまさいこ	アブラムシ類	1500 倍		収穫 30 日 前まで		5 回以内		5 回以内	
薬用にんじん				収穫 180 日 前まで					
ソルガム	アブラムシ類 ツマシロクサヨトウ	1000 倍		100~300 L/10a		収穫 30 日 前まで		3 回以内	3 回以内
やまのいも	ヤマノイモコガ アブラムシ類					収穫 45 日 前まで		1 回	1 回
葉しょうが	アワノメイガ				収穫 21 日 前まで	2 回以内	2 回以内		

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセフェートを含む農薬の総使用回数
たばこ	ヨトウムシ、タバコアオムシ アブラムシ類	1500～2500 倍	25～180 L/10a	収穫 10 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
	ヤサイゾウムシ	1000～2000 倍	1L/m ²	苗床期			
	ジャガイモガ若齢幼虫 ジャガイモガ中齢幼虫	1500～2000 倍	25～180 L/10a	収穫 10 日前まで			
つつじ類	ツツジゲンハイ	1500 倍	200～700 L/10a	発生初期	5 回以内	散布	5 回以内
つばき類	チャドクガ						
さくら	モンクロシャチホコ	1000～1500 倍	100～300 L/10a	発生初期	5 回以内	散布	5 回以内
	アメリカシロヒトリ	1500～2000 倍					
花き類・観葉植物	アザミウマ類、アブラムシ類 アオムシ、ヨトウムシ類	1000 倍	100～300 L/10a	発生初期	5 回以内	散布	5 回以内
きく	マハモグリバエ オオタバコガ						
ストック	コナガ、ハイマダラノメイガ						
宿根アスター	ヨメナスジハモグリバエ						
オンシジウム	カイガラムシ類						
カーネーション	コナガ						
ひまわり	タバコガ						
斑入りアマドコロ リアトリス	ハマキムシ類						
樹木類							
グラジオラス	アザミウマ類						
芝	シバツトガ タマナヤガ						
	スジキリヨトウ ケラ	1～2L/m ²					
	シバオサゾウムシ成虫	2L/m ²					
	アカフツツリガ	0.5～1L/m ²					
もりあざみ	アブラムシ類	1500 倍	100～300 L/10a	収穫 45 日前まで	1 回	10 分間 球根 浸漬	1 回
まめ科牧草	アブラムシ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 45 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内

[特長]

- * アオムシ・コナガ・ヨトウムシなどの食害性害虫やアザミウマ・アブラムシ・ヨコバイなどの吸汁性害虫に優れた効果を示します。
- * 高い浸透移行性により、作物のすみずみに行き渡り、害虫をむらなく防除します。
- * 効果の持続期間が長く、省力的な害虫防除ができます。
- * かき、たまねぎ、茶、花き類などに発生するアザミウマ類に優れた効果を示します。

[使用上の注意事項]

- * 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- * 調製した薬液は、できるだけ早くその日のうちに使用すること。
- * てんさいの育苗期の灌注は薬液が茎葉に残っていると薬害を生じることがあるので、軽く散水(0.5L/m²)して除去すること。
- * てんさい・ばれいしょ・たまねぎに対して希釈倍数300倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の地上液剤散布装置を使用すること。
- * さくらに使用する場合、夏期高温時には薬害を生じるおそれがあるのでさけること。
- * カーネーションの品種によっては薬害を生じるおそれがあるので、初めて使用の場合は使用者の責任において事前に薬害の有無を十分に確認してから使用すること。
- * みずかけな(水掛菜)、カラー及び花はすに使用する場合は、ほ場内に水がない状態で使用すること。また、使用後14日間は入水しないこと。
- * 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- * ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - (1) ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - (2) 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
 - (3) 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- * 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分に確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

〈本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること〉

- * 散布は各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
- * 散布機種に適合した散布装置を使用すること。
- * 散布中薬液の漏れのないように、機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
- * 散布薬液の飛散によって他の動植物及び諸物件に影響を与えないよう、散布地域の選定に注意すること。

[安全使用上の注意事項]

- * 誤飲・誤食などないように注意すること。
- * 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないように注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けること。
- * 使用の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- * 作業時に着用していた衣服などは他のものとは分けて洗濯すること。
- * かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- * 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- * 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

治療法…本剤の解毒剤としては動物実験で硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤が有効であると報告されている。